

【 杵 築 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

	全体	学習指導要領の内容					
		言葉の特徴や 使い方に 関する 事項	情報の扱い方 に関する 事項	我が国の言語 文化に 関する 事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	69	62.1	89.2	78.4	62.5	73.7	71.6
大分県	69	65.7	87.6	76.9	60.6	70.4	73.8
全国	67.7	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7

◇全14問（選択式10問・短答式2問・記述式2問）であり、教科全体では全国平均を1.3ポイント上回り、県平均と同等であった。短答式・記述式問題形式については全国正答率62.1%であるのに対して杵築市65.7%と全国平均を上回っている。

□「話すこと・聞くこと」領域は全国平均を2.7ポイント上回っており、中でも「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する」（思考・判断・表現）は全国平均を5.0ポイント上回っている。

□「書くこと」領域は全国平均を5.3ポイント上回っており、中でも「目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」（思考・判断・表現）は全国平均を9.9ポイント上回っている。

■「言葉の特徴や使い方に
関する事項」領域の「学年別漢字
配当表に示されている漢字を
文の中で正しく使う」（知識・
技能）は全国平均を1.9
ポイント下回っている。

■「言葉の特徴や使い方に
関する事項」領域の「主語と
述語の関係を捉えること
ができる」（知識・技能）は
全国平均を4.6ポイント下
回っている。

□正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国より少ない。（市：1.5% 全国：4.7%）

□14問全てで、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が9問あり、自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

① 「漢字を文の中で正しく使う」ことについては、今後も継続して漢字の持つ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付ける。そのために、国語辞典や漢字辞典を活用して意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れる。また、タブレット（AIドリルや漢字アプリ等）で既習の漢字を繰り返し学習し習得を図る。言語能力の育成は必須であり、読書活動の推進も図っていく。

② 国語科での言語活動において、自分の考えを書く活動を取り入れ、根拠をもとに説明させる等、表現させる学習を積み重ねてきた。話し合い活動を取り入れる際は、話し合う目的や意図を明確にしたうえで、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるよう、多様な表現を話し合いの中で用いることにより話し合いの質の向上を図っていく。

③ 主語と述語の関係については、日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりする習慣をつける。また、「～が」「～は」のように主語の表し方は様々にあることに留意して指導していく。

④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み、定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

	全体	学習指導要領の領域			
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用
杵築市	65	68.5	67.3	50.0	64.0
大分県	63	66.0	66.8	48.3	61.9
全国	63.5	66.0	66.3	51.7	61.8

◇全16問（選択式5問・短答式7問・記述式4問）であり、教科全体では全国平均を1.5ポイント、県平均を2.0ポイント上回った。短答式で全国正答率62.0%に対して杵築市62.2%、記述式で全国正答率50.9%に対して杵築市54.1%と、ともに全国平均を上回っている。

□「数と計算」領域は全国平均を2.5ポイント上回っており、中でも「問題場面の数量の関係を捉え、式に表す」（知識・技能）は全国平均を5.4ポイント上回っている。

□「データの活用」領域は全国平均を2.2ポイント上回っており、中でも「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりが無いように分類整理する」（知識・技能）は全国平均を5.1ポイント上回っている。

■「図形」の領域では、「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す」（思考・判断・表現）は全国平均を3.0ポイント下回っている。

■「変化と関係」の領域では、「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる」（思考・判断・表現）は全国平均を7.1ポイント下回っている。

□正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国より少ない。（市：1.5% 全国：4.7%）

□16問中13問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が4問であった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ① 「数と計算」、「データの活用」については「問題場面を図や式に表す」ための指導の充実や、「グループでの話し合い活動」が効果的であったと思われる。今後も継続して取り組むことで一層の定着を図っていく。
- ② 「図形」領域では、直方体や、角柱を構成する要素について理解できている。半面、球の直径の長さ・円周の長さ・円周率の関係や、球の直径の長さが立方体の辺の長さに対応するという関係を捉えることができていないと考えられる。図形領域では、1人1台端末や、大型提示装置を有効活用し、視覚的に図形の間接関係を捉えることができるように指導していく。
- ③ 「変化と関係」領域では、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する場面において、2つの数量の関数に着目し、その関係を用いることができていなかったと考えられる。問題場面を把握し、求めた速さを式に表すこと、道のりと時間と速さを図に示し、求めた速さが妥当か検討することができるように指導していく。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み、定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

	全体	学習指導要領の内容					
		言葉の特徴や 使い方に関する 事項	情報の扱い方 に関する事項	我が国の言語 文化に関する 事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	57	55.9	55.9	84.4	60.2	61.6	47.9
大分県	58	58.8	57.8	80.3	58.3	63.4	47.5
全国	58.1	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9

◇全15問（選択式9問・短答式3問・記述式3問）であり、教科全体では全国平均を1.1ポイント、県平均を1.0ポイント下回った。短答式・記述式問題形式については全国正答率53.7%であるのに対して杵築市54.1%と全国平均を上回っている。

□「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域は全国平均を3.3ポイント下回っているが、中でも「文脈に即して漢字を正しく書く」（知識・技能）で全国平均を5.1ポイント上回っている。

□「我が国の言語文化に関する事項」領域は全国平均を8.8ポイント上回っている。

■「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域の「文の成分の順序や照応について理解している」（知識・技能）は全国平均を8.3ポイント下回っている。

■「情報の扱い方に関する事項」領域の「意見と根拠など情報との関係について理解している」（知識・技能）で全国平均を6.6ポイント下回っている。

■正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国より多い。（市：8.1% 全国：7.6%）

□15問中11問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が6問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- ① 「文脈に即して漢字を正しく書く」ことについては、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導したことの効果だと思われる。漢字を書く活動について、今後も継続して指導していく。
- ② 短答式・記述式問題については、各学校の授業改善による思考ツールの活用や、学び合いの場の設定が効果的であったと思われるため、今後も継続して取り組んでいく。
- ③ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、文の成分の順序や照応について理解する学習が不足していたことが考えられる。文節や単語などの意味を理解するにとどまらず、それが文章の中でどう使われているのかを授業の中で指導していく。
- ④ 「情報の扱い方に関する事項」については、他教科の中でも話し合い活動を意図的に仕組むなど活動の機会を増やしている。話し合いの中で、誰がどのような立場で意見を述べているのか、話し合いの話題や展開を捉えることができるよう指導していく。
- ⑤ 「書くこと」領域においては、文章を構成する力を指導していく必要がある。これは「文章の全体像をつかむ」読解にも繋がる。その為に、作文指導において、段落構成を考え、見通しを立てて書かせたり、書き方のモデルを提示し、書いた文章を互いに読み合わせたりして、文章の構成の工夫を考える活動に取り組みさせる必要がある。
- ⑥ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

	全体	学習指導要領の領域			
		数と式	図形	関数	データの活用
杵築市	49	47.1	33.2	57.5	53.8
大分県	50	49.4	36.5	59.5	52.8
全国	52.5	51.1	40.3	60.7	55.5

◇全16問（選択式5問・短答式6問・記述式5問）であり、教科全体では全国平均を3.5ポイント県平均を1.0ポイント下回った。短答式で全国正答率66.9%に対して杵築市64.7%、記述式で全国正答率29.3%に対して杵築市22.2%と、ともに全国平均を下回っている。

□「データの活用」領域の「簡単な場合について、確立を求めることができる」（知識・技能）は全国平均を4.3ポイント上回っている。

■「数と式」領域は全国平均を4.0ポイント下回っており、中でも「等式を目的に応じて変形することができる」（知識・技能）では全国平均を9.1ポイント下回っている。

■「図形」領域は全国平均を7.1ポイント下回っており、中でも「筋道を立てて考え、小計することができる」（思考・判断・表現）では全国平均を14.0ポイント下回っている。

■正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国より多い。（市：14.6% 全国：14.0%）

□16問中8問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が4問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- ① 「振り返り」の場面で、振り返りシートを活用することに引き続き取り組む。理解が不十分な生徒に対し個別に教材を用意し取り組ませることにより、学習内容の定着を図っていく。
- ② 「データの活用」については、データを読み取った上で、事柄が成り立つ理由を筋道立てて考える活動（ペア・グループ活動）が効果的であったと考えられる。1人1台端末や、大型提示装置を有効活用し、今後も継続し指導していく。
- ③ 「数と式」については、等式を目的に応じて変形する際に必要な等式の性質について理解したうえで、複数の性質を用いて変形することができるよう指導する必要がある。未知数を求めるためには、等式の変形は必須であり、過去の振り返りを扱いながら指導していく。
- ④ 「図形」については、三角形の外角が2つの内角の和に等しいことや、合同条件等、証明に用いる基礎的・基本的知識を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるように指導する必要がある。その際、1人1台端末や、大型提示装置を有効活用し、視覚的に生徒を支援することが大切である。
- ⑤ 上記の改善方策や1人1台端末の活用を取り入れた授業について、校内研究会や杵築市教育課程研究協議会の授業研究会において公開し、多くの教員が参観することによって、どの学校でも全ての生徒が考え表現する授業を実施できることを目指していく。
- ⑥ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図っていく。